



# N1 Service Provisioning System

## 4.1 ご使用にあたって

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.

Part No: 817-5512-10  
2004 年 2 月

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービイマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェイスマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されず、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: N1 Service Provisioning System 4.1 Release Notes

Part No: 817-4823-10

Revision A



040309@7940



# 目次

---

はじめに 5

- 1 **N1 Service Provisioning System 4.1 の問題 9**
  - アンインストールの問題 9
    - アンインストールウィンドウに CenterRun 4.0 と表示される (4125) 9
    - Windows Master Server のサイドバイサイドアップグレード時にアンインストールが正しく実行されない (3927) 10
  - 実行時の問題 10
    - プランの記述が保存されない (4120) 10
    - Master Server の復元時にエラーが発生する (4113) 10
    - Differential Deploy を使用していると、コンポーネントを、別のコンポーネントと同じディレクトリに配備するときに正常に終了しないことがある (4100) 11
    - 「比較」をインストールするモデルの実行時にエラーが発生する (4016) 11
    - Check In Current をサポートしないコンポーネントに対して Check In Current を実行してもエラーにならない (4085) 11
    - デフォルト値だけのレジストリキーリソースを削除できない (3103) 12
    - AIX Remote Agent での Prepare Host または Plan Run が失敗することがある (2960) 12
    - プランの実行中に Master Server を停止すると、プランが正常に終了したかのように見えることがある (2946) 13
    - Microsoft の IIS 設定を変更してからこれを元に戻しても、値が同一ではないと見なされる (2915) 13
    - ポップアップをブロックする Web プロキシサーバーでは Host Preparation を実行できない (2782/2844) 13
    - プランやコンポーネントのダウンロード時に XML エラーが発生する (2041/2196) 13
  - BEA WebLogic サーバーとの対話に関する問題 14

WebLogic アプリケーションの再起動オプションが正しく動作しない (3932) 14  
WebLogic 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (3919) 14  
WebLogic アプリケーションの変更が比較結果に反映されないことがある  
(3851/3854/3857) 15  
オンディスクの WebLogic アプリケーションアーカイブの内容を変更しても、変  
更が比較結果に正しく反映されない (3835) 15

## はじめに

---

このマニュアルには、インストールの問題に関する詳しい説明を始め、N1™ Service Provisioning System 4.1 のリリース直前になって明らかになった情報が記載されています。

---

## 対象読者

このマニュアルは、N1 Service Provisioning System 4.1 のインストールや使用に携わるユーザーやシステム管理者を対象としています。

---

## 関連マニュアル

N1 Service Provisioning System 4.1 のインストールや使用時には、次のマニュアルが必要になることがあります。

- 『『N1 Service Provisioning System 4.1 インストールガイド』』
- 『『N1 Service Provisioning System 4.1 ユーザーガイド』』
- 『『N1 Service Provisioning System 4.1 リファレンスガイド』』

これらのマニュアルの日本語版については、docs.sun.com の Web サイト (<http://docs.sun.com/coll/1139.1?l=ja>) を参照してください。

---

# Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

---

## 表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	<code>system% su</code> <code>password:</code>
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、 <code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。  この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ幅を超える場合に、継続を示します。	<code>sun% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`</code>

コード例は次のように表示されます。

### ■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

- C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

- Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[ ] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

---

## 一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。



## 第 1 章

---

# N1 Service Provisioning System 4.1 の問題

---

この章では、これまでに明らかになっている N1 Service Provisioning System 4.1 の問題について説明します。括弧内の番号は管理番号です。

- 9 ページの「アンインストールの問題」
- 10 ページの「実行時の問題」
- 14 ページの「BEA WebLogic サーバーとの対話に関する問題」

---

## アンインストールの問題

この節では、これまでに明らかになっているアンインストールの問題について説明します。

### アンインストールウィンドウに CenterRun 4.0 と表示される (4125)

Local Distributor または Remote Agent の 4.0 Windows バージョンを N1 Service Provisioning System 4.1 にアップグレードした後でそのアプリケーションをアンインストールすると、アンインストールウィンドウのタイトルに CenterRun 4.0 と表示されます。

回避策: アンインストールプログラムは正常に実行されます。タイトルは誤りなので無視してください。

## Windows Master Server のサイドバイサイドアップグレード時にアンインストールが正しく実行されない (3927)

Windows Master Server のサイドバイサイドアップグレードの実行時にアンインストールが即座に行われません。アンインストールを正常に終了するためには、手動による介入と再起動が必要になることがあります。

回避策: Master Server アンインストールを実行する前に、Windows Control Panel の Services アプリケーションから Master Server サービスを停止してください。アンインストールが完了しても、パネルには Master Server サービスが依然として表示されています。Windows Control Panel の Services アプリケーションから Master Server サービスのエントリを削除するには、マシンを再起動する必要があります。

---

## 実行時の問題

この節では、これまでに明らかになっている実行時の問題について説明します。

### プランの記述が保存されない (4120)

新規プランの作成時に「Description」フィールドに記述を入力しても、そのプランの「Advanced Edit」ページに記述が表示されません。

回避策: 「Advanced Edit」ページでプランの記述を手で追加してください。

### Master Server の復元時にエラーが発生する (4113)

バックアップの作成に使用した Master Server とは異なるディレクトリまたはマシンにインストールされている Master Server を復元すると、次のエラーが発生することがあります。

```
ERROR! Failed to restore the database successfully.  
The following fatal errors were encountered  
ERROR: stat failed on file
```

回避策: 復元自体は正常に終了していますので、エラーメッセージを無視してください。

## Differential Deploy を使用していると、コンポーネントを、別のコンポーネントと同じディレクトリに配備するときに正常に終了しないことがある (4100)

Differential Deploy がアクティブのときに、コンポーネントを別のコンポーネントがすでに配備されているディレクトリに配備すると、コンポーネントの一部しか配備されないことがあります。エラーメッセージは表示されません。新しいバージョンの構成可能コンポーネントを同じディレクトリに配備すると、必ずこの問題が発生します。しかし、異なるバージョンの構成不可コンポーネントを同じディレクトリに配備した場合には、この問題は発生しません。名前が異なる2つのコンポーネントを同じディレクトリに配備する場合にも、この問題が発生することがあります。

回避策: この問題を避けるためには、Differential Deploy のデフォルト値を無効にするか、コンポーネントを別々のディレクトリに配備する必要があります。

ホストにインストールしたコンポーネントのステータスを確認する場合は、「比較」をインストールするモデルをこのホストで実行します。

## 「比較」をインストールするモデルの実行時にエラーが発生する (4016)

「比較」をインストールするモデルを保存して実行し、コンポーネントをアンインストールしてから、保存した比較を実行しようとする、次のエラーメッセージが表示されることがあります。

```
Unable to run the comparison
Unable to save to the comparisons database. (600035)
ERROR: referential integrity violation-key referenced from
rox_difference_settings not found in rox_installed_component
```

回避策: 作成して保存した、「比較」をインストールするモデルを実行しないでください。「比較」をインストールするモデルを新しく作成してください。

## Check In Current をサポートしないコンポーネントに対して Check In Current を実行してもエラーにならない (4085)

Check In Current 操作を実行すれば、Master Server レポジトリにあるコンポーネントが最新のバージョンであるかどうかを確認できます。Master Server は、そのコンポーネントとソースホストのコンポーネントが同じバージョンであるかどうかを検査します。この検査は、そのコンポーネントの場所に関するメタデータを使って行われます。このデータは、直前の Check In 時に収集されたものです。

Check In Current 操作は、すべてのコンポーネントタイプに対して使用できるわけではありません。一般的に、Check In Current 操作の対象となるのは、GUI を使って表示できるコンポーネントタイプです。

Check In Current の一括操作を行う場合には、Check In Current 操作をサポートしないコンポーネントタイプを選択しても、エラーは発生しません。「Progress」ダイアログボックスに結果が表示されますが、サポートされないコンポーネントタイプの結果には、ブランクや履歴データが表示されることがあります。

回避策:回避策はありません。

## デフォルト値だけのレジストリキーリソースを削除できない (3103)

タイプがレジストリキーである単一リソース (捕捉しようとするエントリは単一のデフォルト値) を持つコンポーネントを、付随すべきレジストリキーを指定せずに作成すると、その値を配備することはできませんが、それをアンインストールしたり削除したりすることはできません。パスが無効であることを示すメッセージが表示されません。

回避策: 捕捉しようとするレジストリキーの値をデフォルト値だけにならないようにします。たとえば、キーとデフォルト値を指定します。

## AIX Remote Agent での Prepare Host または Plan Run が失敗することがある (2960)

Prepare Host または Plan Run を AIX Remote Agent で実行する場合、ターゲットの / ディレクトリに無効な NFS マウントがあると、実行が失敗することがあります。たとえば、リモートサーバーからターゲットにマウントした CD-ROM をリモートサーバーから取り外すと、無効な NFS ファイルマウントがターゲットに残ります。また、リモートサーバーが停止したときに、そのファイルシステムの 1 つがターゲットにマウントされている場合にも、無効な NFS マウントが作成されます。このような場合、ファイルシステムを適切にアンマウントしないと、Plan Run および Prepare Host が、この無効な NFS 参照を解決しようとしたときにハングします。これと同じ現象は、このファイルシステムディレクトリに対して ls コマンドを実行したときにも発生します。プランタイムアウトが発生するか、NFS タイムアウトによって Plan Run または Prepare Host が終了します。

回避策: Plan Run の間に Fast Preflight を有効にします。NFS 検査は、通常の Preflight の間だけ行われます。さらに、ターゲットサーバーを準備したり、プランを実行したりする前に、すべての NFS マウントが解決可能であり、有効であることを確認してください。

## プランの実行中に Master Server を停止すると、プランが正常に終了したかのように見えることがある (2946)

ある種の状況では、UNIX® システムで `kill -9` コマンドを使って Master Server を異常終了させたり、Windows で Master Server サービスを停止したりすると、実行されているプランが正常に終了したかのように見えることがあります。

回避策: プランステップの詳細な結果に、プランが異常終了したことが示されます。

## Microsoft の IIS 設定を変更してからこれを元に戻しても、値が同一ではないと見なされる (2915)

IIS 設定値のスナップショットを含む「比較」をインストールするモデルを実行する場合、ターゲットサーバーで IIS 設定をいったん変更し、それを再び元の値に戻すと、値が同じであるにもかかわらず、比較の結果、値が同じではないと見なされることがあります。とりわけ、Web サイトの読み取り/書き込みアクセス権やデフォルトのドキュメント設定値など、親ノードから引き継がれる IIS メタベースプロパティは、このような結果を招きやすくなっています。

回避策: 値が同一ではない旨のメッセージを無視してください。

## ポップアップをブロックする Web プロキシサーバーでは Host Preparation を実行できない (2782/2844)

一部の Web プロキシサーバーはポップアップウィンドウをブロックするように構成されている場合があります。Host Preparation を正常に実行するためには、ポップアップを表示する必要があります。

回避策: ポップアップダイアログボックスをブロックする Web プロキシサーバーを使用しないでください。

## プランやコンポーネントのダウンロード時に XML エラーが発生する (2041/2196)

Internet Explorer 5.0.x を使ってプランやコンポーネントをダウンロードすると、次の XML エラーが発生することがあります。

The XML page cannot be displayed

回避策: 次の手順を行なってください。

1. ブラウザマシンで RegEdt32 か regedit を実行して、次のディレクトリを探します。

```
% HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Classes\MIME\Database\Content Type  
\application/octet-stream
```

2. 次のキーを削除します。

```
"Extension"=".xml"
```

---

## BEA WebLogic サーバーとの対話に関する問題

この節では、明らかになっている WebLogic アプリケーション関連の問題について説明します。

### WebLogic アプリケーションの再起動オプションが正しく動作しない (3932)

WebLogic アプリケーションの再起動オプションを選択すると、アプリケーションのインストール時にエラーが発生します。

回避策: 再起動オプションを選択しないでください。

### WebLogic 管理サーバーとの SSL 接続がサポートされない (3919)

N1 Service Provisioning System 4.1 で WebLogic 管理サーバーの設定を行う際に「Secure」チェックボックスをクリックすると、SSL に基づく接続が設定されます。しかし、このような操作をすると、WebLogic 管理サーバーへのアクセスが必要なアクションを行おうとしたときにエラーが発生します。

回避策: WebLogic 管理サーバーの接続を設定する際には、必ず、必要な SSL 接続を指定してください。つまり、「Secure」チェックボックスをクリックしないでください。

## WebLogic アプリケーションの変更が比較結果に反映されないことがある (3851/3854/3857)

WebLogic アプリケーションの配備属性 (配備順序、ステージングモード、配備済みなど) を WebLogic 管理コンソールから変更しても、N1 Service Provisioning System 4.1 の比較結果にその変更が反映されません。

回避策: WebLogic アプリケーションの配備属性を変更する場合には、N1 Service Provisioning System 4.1 から行なってください。

## オンディスクの WebLogic アプリケーションアーカイブの内容を変更しても、変更が比較結果に正しく反映されない (3835)

N1 Service Provisioning System 4.1 を使って WebLogic アプリケーションをインストールしてから、管理サーバーにあるオンディスク WAR アーカイブの内容を変更しても、変更が比較結果に反映されません。構成を変更した場合には、この問題は発生しません。

回避策: generate 拡張と prepare 拡張を使えば、「比較」をカスタマイズできます。その場合には、「比較」を実行する前にオンディスク表現をより詳細に事前処理できます。そのためには、高度なスクリプト処理が必要になることがあります。

